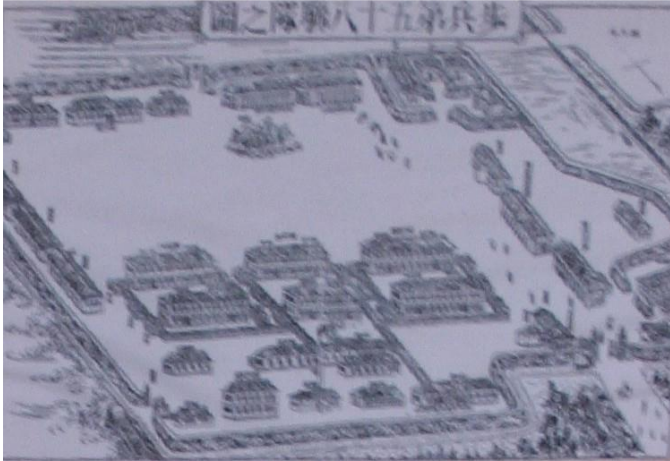


新発田高田連隊

県内には、新発田第16連隊と高田第30連隊が置かれました。軍隊に入るとそこで訓練を受け、次々に戦地へ送られました。出征兵士を送る集会が各地で開かれ、日の丸の小旗を振り、軍歌を歌って見送りました。日中戦争に突入するとさらに新発田第116連隊(添田部隊)と高田第58連隊(倉林部隊)が編成されました。



満州事変の時も、日中戦争に突入した時も

高田第58連隊は、昭和12(1937)年9月に上海に上陸し、11月の新木橋(しんもつきょう)の戦闘で、戦死377人、負傷者549人を出し、連隊兵力の3分の1以上を失いました。

昭和14(1939)年5月にソ満国境に起きたノモンハン事件では、高田第30連隊と新発田第16連隊が、急きょ増援部隊として現地に派遣され、9月ソ連戦車隊の前面に展開した新発田連隊は200余人の戦死傷者を出して敗退しました。

太平洋戦争に突入すると

新発田高田連隊は南方戦線に投入されました。昭和17(1942)年10月、ソロモン諸島のガダルカナル島に上陸した新発田部隊は、敵の砲火を浴び、兵員・食糧・弾薬もとだえ、18年2月に同島を撤退するまでに、連隊長以下2210人の死者を出しました。多くは飢えとマラリアなどによる病死でした。その後同隊は、昭和19年9月に雲南作戦(中国南

部)に投入され868人が戦死、翌年3月にはビルマ戦線で1103人が戦死しました。

ガダルカナル島での戦死者



一方、昭和19年に入り、中国中部(中支)の衡陽市攻略に参戦していた新発田第116連隊は、その近くの土地岑(とちしん)の戦闘で兵力の3分の1が玉砕しました。

昭和18年から南方戦線に移動していた高田第58連隊は、昭和19年1月、ビルマインド国境のインパール作戦で惨敗、5000人の部隊が撤退するときは400人といわれました。(*「柿崎町史」*)また敗退する日本軍に英軍は容赦なく追撃し、「白骨街道」といわれるほど、日本兵の死体があふれたという。ここでも戦闘による戦死よりも、敗走中の飢えと病気による死亡が多かったのです。

関連ホームページ

インパール作戦後の“地獄”指導者たちの「道徳的
勇気の欠如」ミャンマーの戦跡薄れる戦争



[https://www3.nhk.or.jp/news/special/senseki/
article_163.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/senseki/article_163.html)